

[STEP 7] ～札を覚えよう(その6)～

《たこ》

五十枚の札を覚えたところで、中ダルミをしないよう頑張っておほしい。札を覚える頂ばかりだが、札を全て覚えた後には、競技かるたのルールについての解説が待っている。

すでに覚えた五十枚の札は、詠札・取札ともに別にわけてあることと思うので、まだ覚えていない五十枚の詠札の中から、「た」の音(字)で始まる札と「こ」の音(字)で始まる札とを探し出してほしい。次に、同様にまだ覚えていない五十枚の取札の中から、今探し出した詠札に対応する札を探し出してほしい。「た」で始まる札も「こ」で始まる札も、詠札とそれに対応する取札ともに六枚ずつ見つかった筈である。

「た」の音(字)で始まる札を見てみよう。「たか」「たち」「たご」「たま」「たき」「たれ」と全て二字決まりである。他の五枚の札が詠まれて残り一枚になった時だけ一字決まりになるが、それまではどの札も二字決まりである。この「た」札六枚は、二字めを取って「かちごまきれ」と覚えると覚えやすい。では、詠札の決まり字と取札を対応させてしっかり覚えよう。取札だけを見て、その札の決まり字が六枚とも言えるようになったら、「こ」で始まる札に進もう。

「こ」で始まる札の決まり字を見ると「こころあ」「こころに」の四字決まりが二枚と「これ」「この」「こぬ」「こひ」の二字決まり四枚から構成されていることがわかる。「こ」の札は、二字めを取って「これのぬひ」と覚えるが、どれが二枚あったかわからなくなりそうな人は「ここのぬひ」と覚えておけばよい。札の詠まれる順番を想定して決まりの変化を追ってみよう。それが終わったら、取札を対応させて札を覚えよう。取札だけを見て決まり字が言えるようになったら、このステップも終わりである。最後に、「た」と「こ」の取札十二枚をよく切って、順番に決まり字を言ってみよう。全部言えたであろうか。

㊦㊦㊦ 決まり字・下の句対照表 ㊦㊦㊦

《たこ》

「たか」……とやまのかすみたたすもあらなむ

「たき」……なこそなかかれてなほきこえけれ  
 「たご」……ふしのたかねにゆきはふりつつ  
 「たち」……まつとしきかはいまかへりこむ  
 「たま」……しのみることのよわりもそする  
 「たれ」……まつもむかしのともならなくに  
 「こぬ」……やくやもしほのみもこかれつつ  
 「この」……もみちのにしきかみのまにまに  
 「こひ」……ひとしれすこそおもひそめしか  
 「これ」……しるもしらぬもあふさかのせき  
 「こころあ」…おきまとわせるしらきくのはな  
 「こころに」…こひしかるへきよはのつきかな

㊦㊦㊦㊦㊦ 札音(4) ㊦㊦㊦㊦㊦

～姫の枚数～

坊主の札の枚数の話をして、姫の札の枚数の話をしないのは片手落ちというものである。姫札は全部で二十一枚ある。以下の詠人が姫である。

持統天皇	小野小町	伊勢
右近	右大将道綱母	儀同三司母
和泉式部	紫式部	大式三位
赤染衛門	小式部内侍	伊勢大輔
清少納言	相模	周防内侍
祐子内親王家紀伊	待賢門院堀川	皇嘉門院別当
式子内親王	殷富門院大輔	二条院讃岐

小倉百人一首には、一番天智天皇から百番順徳院までの配列の順番がある。この姫札二十一枚は、実はほとんどが後半にかたまっている。前半五十枚中わずかに四枚、後半五十枚には十七枚もある。しかも、五十一番から七十番までの二十枚のうち姫札の半分以上の十一枚が集中している。理由はあるのだろうが、話のタネにとどめておこう。

㊦㊦㊦㊦㊦ 札音 ㊦㊦㊦㊦㊦